

あじさいネットを使ってより適切に安心な服薬指導へ。



大村市富の原

きらら薬局

河村 綾子 先生

TEL : 0957-49-0850

ali_al1505@yahoo.co.jp

入会のきっかけ

大村市の医師会と歯科医師会と薬剤師会の三師会は日頃から交流があります。あじさいネットへの入会は、そんな日頃から親交があった大村市医師会の先生方や大村東彼薬剤師会の理事の方々に声をかけて頂いたことがきっかけです。

最初はあじさいネットがどういったものかよく分からないまま「医療ネットワークシステムを利用して長崎医療センターのカルテを見ることができ」と説明を受け、実感が湧かないまま入会しました。当初は利用していませんでしたが、折角あじさいネットにつながっているのに、利用しないのは勿体ないなど思っあじさいネットの画面を開いたところ「あつ、こんなに情報っていっぱいあるんだ」と驚き、それから活用するようになりました。

実際に使ってみて

あじさいネットを利用すると拠点病院のカルテを通して、患者さんが病院に足を運んだ理由から医師の薬の処方意図まで分かります。また、治療内容に変更があった場合や、薬が新しくなったり、変更があったときも画面を通して詳細を知ることが出来ます。検査値等も知ることが出来ますので、これらの情報をもとに「大変でしたね。痛かったですね。」とか「副作用は、出てないようですよ。良かったですね。」とお声かけをしています。良かったですが、患者さんを質問攻めにしなくても、適切な服薬指導ができます。

薬剤師が医師からの正確な情報を知ること、で、患者さんに安心感をもって説明できると、患者さん自身もお薬に対してより安心して頂きますし、医師とつながっていることがよく分かるのですごく安心されるみたいです。

薬局は患者さんにとってより良い薬の飲み方を提案していただける場所

医師は治療方針や薬の処方でもベストな選択をします。薬剤師は患者さんの日々の生活の中で、できるだけ負担なく適正に服薬を続けて頂くために服薬指導を行います。薬局では、患者さんの垣根が低い分、要望や不安をお聞きすることがよくあります。私は、医師が出したベストな処方と患者さんの要望を受けとめて、より良い服薬方法を提案していただける場所が薬局だと思っています。あじさいネットを利用すると、様々な情報をもとに従来と比べてより細やかな提案ができますので、非常に有効だと思います。



・河村 綾子 先生 PROFILE・

H 元年 京都薬科大学卒
23年 開局
21年よりあじさいネット会員
大村東彼薬剤師会理事

参加同意の説明について

私の持っているあじさいネットのイメージとしては、患者さん一人に対し、私たち薬剤師、拠点病院の医師、地域のクリニックの医師でチームを作れるって思っています。患者さんに対してすこくメリットになると思ってお話するからか、参加同意で断られたことはないです。

― 座右の銘 ―

一期一会です。

患者さんとの出会いもそうですし、人との出会いもそうかなと。わざわざ薬局に足を運んでくださった方はすこく大事にしたいなと思います。あじさいネットに入会したのも医師会の先生方とのつながりがあったから。人と人とのつながりがあじさいネットの基盤にあつて、それが広がっていつてますよね。これからも人との出会いとつながりは大事にしていきたいなと思います。

情報提供病院のご紹介

(県央エリア)

国立病院機構

長崎川棚医療センター 地域医療支援センター

「養氣軒 病む人のために」が基本理念の長崎川棚医療センターに伺いました。
長崎川棚医療センターは平成23年7月から情報提供をスタートしました。



みやし こうせい
Message / 宮下 光世 院長
S53年 長崎大学医学部卒
専門：外科
H19年より現職

あじさいネットで診療援助のサポート体制を強化しています。

当院は全診療科があるわけではなく、現在常勤麻酔医が不在ですが、外科、脳外科の救急手術や整形外科の緊急手術を行っていますので、手術の際には麻酔科医に診療援助に来て頂いています。

昨年より麻酔科医があじさいネットを利用できる体制を整えました。手術前にあじさいネットを通じて、麻酔科医に患者さんの電子カルテの診療情報を見て頂いています。そうすることによって手術をよりスムーズに行えるとともに、問題点があれば事前に解決してより安全な手術が行えます。

全ての病院が全ての診療科を網羅できるわけではなく、また、昨今の医師不足や医師の偏在といった問題が多くある中で、あじさいネットを使った診療連携、診療援助、サポートができることは一つの解決策になると考えています。

今回、医師の異動により糖尿病専門の医師が不在になるため、糖尿病患者さんに対し十分な対応ができない状態になります。

今後あじさいネットを利用して佐世保中央病院の糖尿病センターの先生方と糖尿病患者さんに対する診療や外科手術をコンサルティングできるシステムを作ることを検討しています。

県を超えた広域に亘る病病連携に期待

当院は県央二次医療圏の北端に位置しているため大村市、佐世保市、嬉野市と広域に亘り連携をしています。今後はそういった地域と病病連携を進めていきたいですね。佐賀県嬉野市の嬉野医療センターとも連携していますので、将来的には県の枠組みを超えてあじさいネットに参加できるようにすることに期待します。

神経難病治療への活用を検討

当院は急性期医療を担うと伴に、神経難病の基幹病院として、神経難病の患者さんを広域にサポートしています。離島には当院の医師が赴き地域の診療所や患者さんのサポートや診療相談を行っています。そういった場面でもあじさいネットを有効に利用していただくと考えています。

地域の診療所の先生方へ

整形外科などの外科系の先生方にオープンシステムをもっと利用してほしいですね。手術後にクリニックであじさいネットを活用して診療に役立ててもらえたらと思います。以前、当院に勤務し手術していた先生でしたら見慣れたカルテでしょうし。

●登録作業中に不具合が起こったときは？
全体のシステムを管理している宮崎システム管理者に連絡し迅速に対応しています。

●診療所の先生方へ
同意書に関して、運用がスムーズにいかない場合がありますので、正しい同意書の取り扱いをお願いします。

診療所の先生に、患者さんの入院後にあじさいネットへの登録を依頼されるときがあります。参加同意の取得を当院の医師に委ねるため、どうしてもタイムリーな登録ができませんので、急を要する場合は、診療所の方に「ご家族の方を呼んで頂いて、「二親等以内のご家族の方に代理人記載の同意書をとって頂いた方がスムーズにいくのかな」と思います。



後列左から岩野室長、松尾副院長
総合情報管理室 中根室長、宮崎(システム管理者)
前列左から岩崎看護師、平塚(事務)、北野(事務)
松本(総合情報管理室)、鶴田係長
他連携室スタッフ:西田 MSW

情報提供病院のご紹介

(長崎市エリア)

国立大学法人

長崎大学病院 地域医療連携センター

長崎地域であじさいネットが運用を開始したのは平成 21 年 4 月。

長崎大学病院は、第一期稼働施設として情報提供をスタートしました。

• Message / 川崎 浩二 先生「地域連携の中でのあじさいネットの可能性に期待」•



川崎 浩二 副センター長
長崎大学病院
地域医療連携センター 准教授
S58 年 新潟大学歯学部卒
専門：予防歯科学・地域医療学
H15 年より現職

**在宅医療へ移行した患者さんの
フォローアップができる運用**
大病院の医療従事者は、在宅医療移行の事前準備として生活環境を整えたり、活用可能な社会資源の調整を行います。在宅移行後の経過を知ることができません。

退院時共同指導の前に患者同意のもと、在宅医療関係者があじさいネットを通して大病院での治療内容や経過、服薬指導などを情報共有できれば、事前に内容を正確に把握できるとともに、医療関係者への説明時間も軽減されるので、よりスムーズな退院時共同指導ができると思います。

**退院時共同指導を行う場合に
事前に情報共有ができる運用**
入院患者さんの退院前に在宅医療への移行準備として、関係者で打合せ【退院時共同指導】を行います。構成メンバーは、患者・家族、大病院の主治医、看護師、当センターの看護師、場合によっては医療ソーシャルワーカーや薬剤師、そして在宅を担う医師、訪問看護師等です。

退院時共同指導の
事前に情報共有ができる運用

**あじさいネット上での
地域連携バスの運用**
5大がんの地域連携バスをあじさいネット上で利用できたらと思います。地域連携バスは、基本的に紙ベースで運用されています。例えば、乳がんの場合は拠点病院で手術後、診療所に通院しながら、拠点病院で定期的な受診してもらおうパターンが多く、いくつかの診療所と連携しています。これらの連携バスの運用があじさいネット上で可能になると、よりスムーズに連携が行えると思います。



長崎在宅ドクターネットでは、メールリグリストを使って情報共有を行っています。あじさいネットでもそのような機能が求められています。
具体的には、訪問診療に携わる医師、看護師、ケアマネジャー、薬剤師が、掲示板形式であじさいネットに現在の状況を書き込みます。それらを通じて「もっと早く在宅に帰すべきだったのか」「在宅に向けての生活環境や療養支援に関する社会的資源の活用は充分だったのか」といったことが把握でき、在宅支援に関する問題点がより明確化されます。現在このような仕組みがあじさいネットに準備されつつありますが情報のフィードバックができれば更に在宅医療の質を高めることができると思います。

■地域医療連携センターより
あじさいネット会員の皆さまへ
同意書の原本は、定期的に早めにご送付させていただきます。



前列はあじさいネット受付担当スタッフ。左から松崎、上原、福田。登録作業は3人で行っています。システムに不具合が生じた時はSECの伊藤さんと連絡をとり迅速な対応を行っています。

6

同意書の閲覧有効期限は6か月間ですが有効期限内かどうかは画面を操作していかないと分かりませんので、最初の画面の一覧リストに、有効期限が簡単に把握できるような機能がほしいです。有効期限が最初の画面ですぐ分かれば、利用される先生方の手間をわずらわせることもなくなりますし、登録作業の上でも助かります。

あじさいネットへの要望
閲覧有効期限内の患者さんの同意書が送られてくる場合があります。また逆に、診療所の先生が有効期限が過ぎていることを気付かず、画面を見ることができないこともあります。

同意書の原本は、定期的に早めにご送付させていただきます。

シリーズ「あじさいTALK」 第1回

地域医療連携における大学病院の役割と「あじさいネット」での連携のあり方
長崎大学病院 河野 茂 院長 × あじさいネット理事 松本 武浩 先生



Kohno Shigeru
河野 茂 院長
S49年4月 長崎大学医学部卒業
H21年4月 現職
専門は呼吸器内科学

松本 ■「あじさいネット」は地域医療連携の強化という側面がありますが、最近の大学病院での地域医療への取り組みを教えてください。

院長 ■大学病院の役割は「診療、教育、研究」です。そのいずれも重要ですが、地域の中では地域医療の最後の砦としての高度医療と診療支援が求められています。このため脳卒中センターと外傷センターを含めた救命救急センターを設置して2次から3次医療までに対応できる体制を整えました。先月からは一刻を争う重篤な患者の救命率を上げるためドクターカー「龍馬」も設置しました。

松本 ■最近では大学病院から診療所に紹介する逆紹介も盛んになっているように感じます。

院長 ■今の医療は、診療所の先生、拠点病院、そして大学病院がうまく連携がとれないとそれぞれの機能を十分に引き出すことができないと考えています。当院では地域医療連携センターを充実させ紹介・逆紹介に力を入れています。

市中の病院や診療所の先生方と密接な連携をとり、必要であれば大学病院でいつでも診ますが、普段の診療は診療所で診てもらおう型の診療を奨励しています。ただし専門性が極めて高い、合併症を持つ場合は、その疾患分野を大学病院が請け負う「ダブル主治医」型の連携も広がっています。

松本 ■そういったケースでは、まずまず診療情報連携（共有）が重要ですね。

院長 ■確かに診療情報の連携が十分できていないと、質の高い診療に不安を感じてしまうと思います。安心して診療所や一般医療機関に通院してもらうためには、お互いに一歩踏み込んで診療情報の連携を深めることが必要ですね。

松本 ■あじさいネットは、拠点病院のカルテ内容が見れるので、拠点病院との連携が密であることを患者さんに理解してもらいやすいと聞いています。

院長 ■あじさいネットのようなIT連携を通じて「あなたの病気を、拠点病院とわかりつけ医、お互いがちゃんと見て全て知っていますよ。」という体制は必要ですね。

松本 ■4月から大学病院も医師の2号用紙の共有を始めました。会員の皆様からは大学病院のカルテは詳しく書いてあると聞いています。

院長 ■診療録記載は医師法で定められた医師の義務ですが、記録の中で診断

あるいは治療の根拠や正確な治療内容経過・結果を示すことが、医療の質を間接的に証明する手段でもあります。また、保険診療上、記録がなければ算定できない加算項目は多く、記録の充実は大変重要ですね。

松本 ■診療録の適切な記載は、昨年受審した特定共同指導での最も重要な指摘項目でもあったため、その前後で診療録記載の指導を強化しました。

特に若い人はこのような考え方を徹底的に学んで欲しいと考えています。

松本 ■新たな取り組みとしてあじさいネット上での医療関連講演のビデオライブラリーサービスや専門カンファランス中継を検討しています。

院長 ■地域の講演においても診療所の先生方は患者さんの状態次第で急に参加できなくなることが多いですね。自分の興味ある疾患分野の講演内容を検索して休み時間にもゆつくり勉強できることは素晴らしいですね。

離島やへき地の先生方もなかなかそのような勉強会に参加できる機会も多くないでしょうし、役立つものと思いませんか。病院の勤務医にも有効でしょうね。



Matsumoto Takehiro
松本 武浩 先生
H元年 長崎大学医学部卒業
長崎大学病院医療情報部准教授
あじさいネット理事

松本 ■カンファランス中継を提案したところ、医学部の講義を有料でいいから是非、聴講したいという声がありました。

院長 ■それも素晴らしいですね。医療従事者は医者に限らず、全て生涯教育が重要です。医学の進歩の速さは診療所の先生方が一番感じられていると思いますので、もう一度基本から勉強し直すことは非常にいいことですね。医学として変わったところ、変わらないうところ、それらをまたフレッシュな気持ちで聴講されると、講義する方もさらに熱心になると思います。

松本 ■最後に、あじさいネットを発展させていく上で、何が必要と思われませんか？

院長 ■私自身も心配していることですが、診療情報という患者さんの個人情報を通じて扱っているのが、非常に重要な問題です。大学病院でも意識の低い先生が多くいます。あじさいネットは、全国から注目されるネットワークとなり、全国に広がっていき、場合によっては運用継続が難しくなるでしょう。ハード面でのセキュリティは万全と聞いていますが、長崎大学病院でも患者情報を記録したUSBメモリーの紛失事故があったように、それだけでは守れません。県内全体で一致協力して患者情報を守る意識の啓蒙と教育に力を注ぐ必要があると思います。

逆にそれができれば、あじさいネット内だけでなくあらゆる医療機関における情報漏洩事故も防ぐことができるのではないのでしょうか。

松本 ■本日は大変お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。 7

Report

理事会、臨時總會、第3回あじさいネット研究会

〈開催日時〉平成24年5月19日(土)14:30~

〈開催場所〉活水女子大学看護学部・大講義室(大村市)

平成23年度 第2回理事会 14:30 ~

平成23年度 臨時總會 15:00 ~

議案として定款及び利用者規定の一部改正、理事・運営委員の交代などについて取り上げられました。過半数の賛成により、取り上げられた議事は全て採決されました。



第3回あじさいネット研究会 16:00 ~

—プログラム—

開会の挨拶 小尾 重厚先生(あじさいネット会長・おび産婦人科医院 院長/大村市)

「今回の研究会では拡大・発展と地域連携への原点回帰という両方向のテーマを考察してあじさいネットを更に発展させる機会としたい。」



藤井 卓先生(藤井外科医院 院長/長崎市)

「長崎市地域での在宅医療とあじさいネット」

藤井先生は、認定NPO法人長崎在宅Dr. ネットの理事長を務めており在宅・訪問診療にも力を入れています。長崎市内で、現在試みられている在宅医療や多職種連携でのあじさいネットの利用法と今後の可能性について講演されました。



田崎 賢一先生(田崎医院 院長/大村市・あじさいネット理事)

「大村市地域でのあじさいネット」

田崎先生は立上げ当初よりあじさいネットに携っており、現在、県央地域部会の中心的な役割を担っています。今回、大村地区での活動報告と、在宅医療でのあじさいネット活用に向けた施行について講演されました。



宮崎 長一郎先生(長崎県薬剤師会 会長・(有)宮崎薬局/長崎市)

「あじさいネットの薬局における利用の実際」

宮崎先生は長崎県薬剤師会会長として薬局でのあじさいネット活用を推進しておられます。今回、すでに運用している薬局に対するアンケート結果に基づき予想以上に検査データを閲覧している点を報告されました。



柴田 真吾先生(市立大村市民病院 医療情報企画部長・あじさいネット理事)

「病院連携でのあじさいネット利用」

柴田先生は病院連携について運営委員会等での議論・検討内容、病院間での調整検討内容に最新の知見を加え、想定される新たな利活用パターンの紹介と、今後解決すべき諸問題について講演されました。



松本 武浩先生(長崎大学病院 医療情報部准教授・あじさいネット理事)

「あじさいネットの新たな機能と価値—地域医療再生基金を使った機能拡充計画—」

松本先生は今後あじさいネットの新たな機能として追加される離島・救急医療支援システム、高品質遠隔画像診断システム、周産期・小児発育支援システム、生涯教育システム、TV会議システムについて講演されました。



【特別講演】大分県別府市医師会 事務次長 田能村 祐一


「ゆけむり医療ネット」における検査・健診情報の活用と今後の展望

別府市医師会は早い時期からあじさいネットの見学にみえられ、平成22年にはあじさいネットを参考とした「ゆけむり医療ネット」を運用開始しました。今回は特徴的な健診情報のネットでの利用や現在の機能、今後の展望について講演されました。



今回は、開催の広報を控えていたにもかかわらず、全国から約130名の参加がありました。また、研究会後の懇親会にも多数の参加があり大盛況のうちに幕を閉じました。懇親会では出席された方々にご挨拶を頂き、皆さまの医療と医療連携に対する熱い想いが伝わってきました。

◆協賛メーカー◆



HOGY


一步先の手術室環境づくりをお手伝いします。

ホギメディカルでは、不織布・キット製品など感染対策製品および理想的な病院経営を総合的にサポートする手術管理システムをご提供しております。

国内最大級の生産・滅菌システムと全国25箇所の営業所ネットワークによって安定的な製品提供ならびにお客様サポートで「安心」をお届けしております。

株式会社 **ホギメディカル**

本社：東京都港区赤坂2-7-7 TEL:03-6229-1300 FAX:03-6229-1344



Empowered by Innovation **NEC**

地域に分散した診療情報を統合して共有するネットワークサービスで地域医療連携をご支援します。

NECの地域医療連携ネットワークサービス

まずはWebで、詳細情報を。 www.nec.co.jp/

お問い合わせは、NEC(医療)ソリューション事業部へ
〒108-8001 東京都港区芝5丁目7-1(NEC本社ビル) TEL. 03(3790)6756

人と地球にやさしい情報社会へ <http://www.nec.co.jp/>

Good Health Creator, MEDICAL+sciENCE

独自の事業スタイルを基盤として
ヘルスケア分野に新たな潮流を生み出します。

東日本大震災に付随した皆様に対し謹んでお見舞い申し上げます。
被災地の一歩も早い復興を心より祈ります。



□ 事業内容

- 臨床検査
（生化学的検査・血液学的検査・生化学的検査・微生物学的検査・遺伝子関連検査・病理学的検査・その他検査）
- 手術医療関連サービス
- 医療関連サービス
- 院内製剤用医薬品・院内製剤用機器・試薬等の開発・製造・販売及び輸出入
- 医薬品・化学品の毒性試験、動物実験試験
- ILS業務による薬物・毒性試験
- 遺伝子-DNA/PCR検査
- 医薬品・医薬-化学品・食品添加物・化粧品等に
おける安全性評価・環境リスク評価サービス
- 食の安全サポート
- F-ヒンジ検査

三菱化学メディエンス株式会社
〒108-8559 東京都港区芝浦四丁目2番8号
TEL.03(10722)4000(代表)

あじさいネット入会方法のご案内

1. 入会
入会申込書を事務局宛に送っていただきます。
所属医師会が入会している場合は個人の入会金は無料です。
所属医師会が入会していない場合は、入会金が 50,000 円必要となります。尚、初期設定費用として別途 30,000 円を承ります。
2. 利用料金
月々 4,000 円 (レセプトオンライン請求も希望の場合は 5,000 円) と年 3,000 円のウイルス対策ソフトライセンス料が必要です。ウイルス対策ソフトライセンス料とあわせて年間一括払いをお願い致します。
3. 機器の設置
機器設置用ヒアリングシートに必要な事項をご記入の上、事務局宛にファックスまたは郵送願います。
シートに基づいて専門スタッフ (NTT 西日本ホームテクノ九州) が設置、動作確認に参ります。
4. 運用講習会
利用法の運用講習会です。講習後『講習会受講修了証』とアクセス専用 ID と仮パスワードをお渡し致します。
5. 同意書と登録
患者さまにあじさいネットに関する説明を行い、あじさいネットに参加するための同意書をご記入いただけます。取得した同意書は診療情報閲覧を希望する情報提供病院の医療連携室宛にファックスで送付して下さい。約 10 分後に連携室より手続き終了の FAX が届きます。この段階で利用可能です。
6. あじさいネットポータルサイトへのログイン
アクセス専用 ID・パスワードにてあじさいネットのポータルサイトにログインし、同意を得た患者さまの診療情報閲覧することができます。

入会等に関するお問い合わせ先

あじさいネット事務局 (長崎県医師会事務局内) 担当: 三浦、苑田
電話 095-844-1111 FAX 095-844-1110

*手続き上、必要な様式ならびに同意書につきましては HP からダウンロードできます。

あじさいな人々

たくま かずひこ



詫摩先生、今回もステキな 4コマ漫画ありがとうございました!

編集後記

5月19日に第3回「あじさいネット研究会」を大村市で開催いたしました。今回は、ほとんど広報しなかったにもかかわらず約130名のご参加を頂きました。全国に参加を呼びかけた第1回、第2回よりはるかに少ない数でしたが、ユーザーによる発表は、最も内容が充実していたと思います。このような研究会は他にもいくつかあるのですが、先日、富士通主催の「地域医療ネットワーク研究会」に参加してきました。長崎医療センターの木村博典先生と長崎市医師会の藤井卓先生が発表されるため応援のつもりでしたが、そこで驚いたのは、他の全4演題が全てスライドのどこかで、「あじさいネットを参考にしました」と記載されていたのです。

参考になれるのは、とても光栄なのですが… 責任はますます重くなりますね。皆さま、くれぐれも正しい運用 (セキュリティルール厳守) をお願いいたします。

*ご感想は、あじさいネット事務局「aj-na@nagasaki.med.or.jp」まで

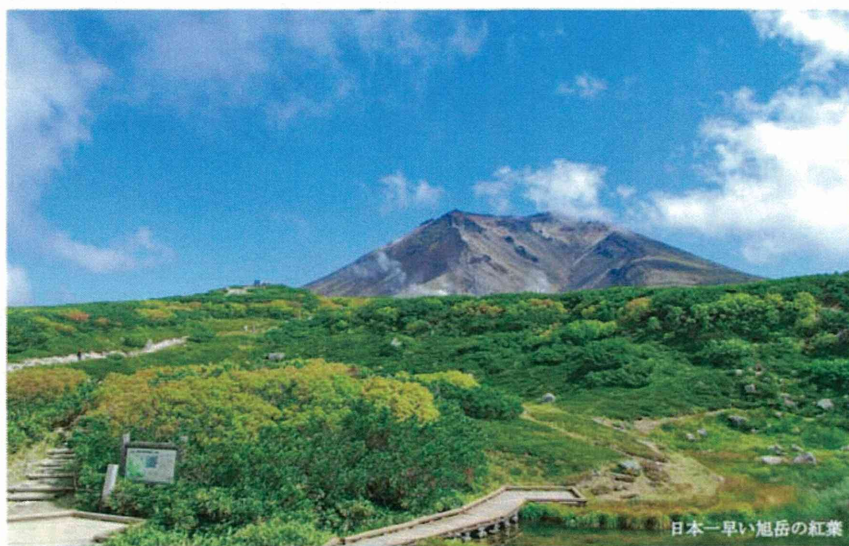
あじさいネット OFF LINE 通信 編集長 松本 武浩

広報誌に関わるご意見・ご要望は、長崎県医師会 長崎県あじさいネット拡充プロジェクト室までお寄せください。
電話 095-894-9655 FAX 095-894-9651 aj-na@nagasaki.med.or.jp
最新の情報は、HP をご覧ください。 <http://www.ajisai.net.org/>



あじさいネット OFF LINE 通信

vol. 4



日本一早い旭岳の紅葉

—北海道・旭岳姿見駅—撮影：木村 博典 先生(長崎医療センター)

目次

会員様の声

田崎医院	田崎 賢一 先生	2
中山小児科クリニック	中山 紀男 先生	3
たしる薬局	田代 浩幸 先生	4

情報提供病院のご紹介

長崎市立市民病院	医療連携センター	5	
日本赤十字社	長崎原爆病院	地域医療連携課	6

あじさいネット キーパーソンに聞く

長崎県 福祉保健部	向原 茂明 参事監	7
-----------	-----------	---

あじさいニュース・情報提供病院のあじさいネット登録受付時間 表紙撮影☆談話

現在の運用状況

(平成 24 年 9 月 15 日現在)
 患者登録数 23,324 名
 (全件あじさいネット説明同意書取得済み)
 会員数 225 名
 情報閲覧施設数 156 施設
 (内、薬局数 21)
 情報提供病院数 16 施設

協賛メーカー (賛助会員)

- (株)ホギメディカル福岡営業所
- 日本電気(株) 医療ソリューション事業部
- 三菱化学メディエンス(株)
- 富士通(株)長崎支店
- (株)NTT データ ライフサポート事業本部

基本理念

地域に発生する診療情報を患者さまの同意のもと、複数の医療機関で共有することによって各施設における検査、診断、治療内容、説明内容を正確に理解し、診療に反映させることで安全で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指すものです。

NPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会



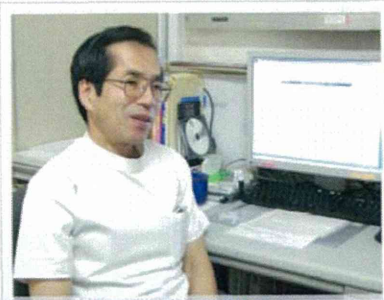
有床診療所でも「あじさいネット」は役立っています。

ネットワークをゼロから作っていくわけですから、意見がぶつかることは当然ありました。病院と診療所ですから必ずしも最初から同じ考えで進んでいるわけではなかったですからね。色々違った意見を出し合いながら議論を交わす中で、現在のような皆同じ方向性の運営がなされるようになったわけですね。

コンセプトは、とにかく使えるものを作ることでした。本来に使えるものは普遍性があるでしょうし、少なくとも長崎県下で通用するものにしてしまうと考えていました。医師会として公金を拠出するので、技術的にも、費用の個人負担の面でも、少数の特定の会員ではなく大多数の医師会員が使えるということが重要なフアクターでした。

あじさいネット立上げ時には大村市医師会理事の立場で携わりました。

立上げ時の思い出



DOCTOR'S PROFILE

S60年 防衛医科大学医学科卒
H8年 開業
H16年 あじさいネット発足当初より入会
あじさいネット立上時メンバー

大村市古町
田崎医院

た き き
田崎

けんいち
賢一 先生

TEL : 0957-53-1234 mail:is802192@fsinet.or.jp

有床診療所でも「あじさいネット」は有効です。

病診連携におけるあじさいネットの有用性はすでに語り尽くされているかもしれませんが、そんな中、当院は絶滅危惧種と言われている有床診療所ではありますが、ここでは紹介患者の様子がリアルタイムに把握できるメリットが特に有効に生かされています。

患者さんの中核病院との行き来はよくありません。容態が悪化したため、中核病院に転院して、落ち着いたら当院に再入院される場合、再受け入れ時の診療情報提供には従来ならば電話・FAX、紹介状郵送などの手段があるわけですが、それらはその時点での要約です。あじさいネットを利用すると、リアルタイムに変化する患者さんの様子を継続して把握できます。転院間際に状態の変化が起こることもよくありますが、そういった際にも対応がしやすくなります。

県央地域部会での取り組み

運営委員会の地域部会は地域に根差したあじさいネットの諸問題を検討していく場です。大村はあじさいネット発祥の地であり、多くの会員にあじさいネットを有効に活用していただいています。一部に、生かし切れていない会員がいらっしやることも事実です。実質的に、あじさいネットをもっと会員の方に活用してもらえれば必要です。使用頻度が少ない先生の使用状況をお聞きしたり、業者さんと連絡をとって実際に設定に行つてもらうなどといった事を考えています。県という大きな単位では難しいいきまこまかなフォローは、都市の顔の見える関係の中でこそやりやすいと思います。

●● 田崎 先生に聞きました！ ●●

- 役職一
 - あじさいネット理事
 - 大村市医師会理事
 - 大村市介護保険運営協議会、認定審査会

一座右の銘一
「そのうちなんとかなるだろう」です。
あんまり深い意味はないのですが、色んな困難な状況でも、悲観的にあんまり先の先まで考えてもやっつけられないから、その場その場でやれることをやるしかない、ということです。

一あじさいネットに一言一
今後拡充して、高機能になって規模が大きくなることはもちろんいいことですが、使いやすく役に立つという、立上げ時の基本の考え方を見失わないように、忘れないようにと。

セキユリテイの確保は一番重視

セキユリテイが破たんしたら、あじさいネットの取組み自体が99%うまくいっていてもネット全体が信用を失いますので、最初から一番重視している点です。当初運用講習会では病院側運営委員の松本先生、柴田先生、開業医側の牟田先生や私と一緒にやりましたが、セキユリテイについてはその重要性をより切実に伝えるために、病院側でなく私たち開業医側が担当して講習をしていました。

現在、あじさいネットは先進的ネットワークとして全国からの注目度は高まっていますが、機械やネットワークのシステムよりもむしろセキユリテイを重視した運用をしていることをよく理解して頂きたいと思っています。

今後は在宅医療での活用に期待

在宅医療分野で活用していきたいです。今でも比較的連携の状況はいいですが、ITのツールを使うことによって連携をより緊密化していくことに在宅医療関係者スタッフと共に期待をしています。

長崎市エリア

【User report】 ～NTT データ取締役相談役(前社長)山下 徹氏が、私の診療所を見学されました。～

還暦の私が日常的に

ITに接しています。

私は今年還暦を迎えました。

長崎市医師会の平均年齢が六十歳といわれていますのでちょうど平均年齢ですね。

特にIT関連に精通している訳でもないのですが、段はインターネットなどの利用者として「IT」に接しています。

小児科医会の情報処理委員となっていますのでIT関連の委員会に毎月出席しています。情報処理委員会の理事の先生方はITに精通されています。先生方なので、会話はほぼ「宇宙語」ですが、私は「地球人」の代表として委員会に出席しています。いうならば平均的な一般会員の代表のつもりで務めさせてもらっています。

診療室には書類やメールを操作するためのパソコンが1台、あじさいネット専用のラインにつな

がったパソコンが1台あります。最近では「Pad」も持っていますが、使い始めたら予想以上に簡単だったので、子供らとのメールを楽しんだりしています。



・DOCTOR'S PROFILE・
S54年 長崎大学医学部卒
S63年 開業
H21年よりあじさいネット会員
(長崎市医師会があじさいネット入会時に入会)
長崎市医師会情報処理委員会 委員

長崎市本原町 中山小児科クリニック 中山 紀男 先生

TEL : 095-844-5155

多くの見学者が診療所を訪れています。

「あじさいネット」は携わる様々な方々のご尽力で全国的に知られるようになりました。そこで実際に診療所でのような使われ方をしているのか見たいという希望が多く寄せられ、全国からの見学者が急増しています。

長崎市内での見学の際には、情報処理委員や医師会会員が手分けして見学受け入れを担当しています。

見学者は北海道から九州まで全国各地より医師会、病院、県、市議会議員、マスコミ、内閣官房、企業と多岐に渡ります。

私の小児科診療所が長崎大学病院に近いこともあり、その一部を木曜日午後の休診時間帯を利用して受け入れています。

三月に、株式会社NTTデータの山下徹社長(当時)が見学にみえられました。IT総本山#ともいえる会社のトップであった方で、普段お会いする機会などない方です。NTTデータの方々は、ITを使ったシステム開発の専門家です。専門家の方々に私に何ができるのか考えてみました。山下社長に「小児科をご覧になったことがありますか」とお聞きしましたところ、一般の開業小児科医院などはきつと初めてだったのだらうと思いましたが、身を乗り出すように興味を示されました。そこで、私の診療所には病児保育所も併設されており、臨床心理士や歯科医師、助産師なども働いていることなどをお話ししながら、院内の案内をしました。開業医は意外に孤立していることや、病院に紹介した患者さんの経過をリアルタイムで



左からNTTデータ 山下 徹 前社長
中央が中山 紀男先生
右は松本 武浩先生(あじさいネット理事)

Profile 山下 徹 / やました とおる
S46年 東京工業大学工学部卒
H19年 NTTデータ代表取締役社長
H24年 NTTデータ取締役相談役
主な監修書「次世代医療の道」(ダイヤモンド社)

見ることが出来る「あじさいネット」が自分自身の教育ツールになっていることなどをお伝えしました。あじさいネットについては特に、画像情報が質量ともに素晴らしいと有用であり、放射線科医の読影レポートを見ることでさらに情報の質が高まります。また主治医の書く日々の診療記録や検査、処方内容などを自院にて追えることは、以前が昼休みを利用していた程度のことしかできなかったわけですから、まさに画期的になった事をお話したところ、大変興味深く聞いておられました。

今後は、システムを構築する専門家の方や地域医師会の方々が「あじさいネット」を見学し何がどう役立つのか検証する必要があるかと思っています。

「あじさいネット」は、操作はより簡便で、応用範囲も広がっています。小児科関連であれば周産期患者の全登録が計画されており、ごく近い将来には小児科医、産婦人科医は全員参加の必要性が発生することでしょう。かかりつけ医の立場で発展してきたこのシステムはさらに進化を続けています。